

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長
(公 印 省 略)

令和 7 年度農作物病害虫発生予察情報について

令和 7 年度農作物病害虫発生予報第 8 号を公表したので送付します。

令和 7 年度農作物病害虫発生予報第 8 号

令和 7 年 8 月 18 日
徳 島 県

I. 普通作物

普通期水稻

斑点米カメムシ類(アカスジカスミカメ、クモヘリカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) 8 月第 3 半旬の水田における生息調査(1 地点当たり捕虫網 20 回振り)では、23 地点のうち 16 地点で生息を確認した。捕獲地点率が 69.6%と、平年(47.1%)に比べてやや高く、地点当たりの捕獲虫数は 2.1 頭と、平年(1.8 頭)並の発生である。

(2) 高松地方气象台が 8 月 14 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 斑点米カメムシ類の生息場所となる周辺雑草を、水稻出穂の 10～15 日前までに除去・処分する。

(2) 出穂直前の除草は本田内に斑点米カメムシ類を追い込むことになるので行わない。

(3) 出穂が早い圃場に集中して飛来する傾向があるので、周辺雑草地や本田での発生に注意し、発生を認めたら早急に防除を行う。

(4) 薬剤散布については、液剤等で出穂期と乳熟期(出穂後約 2 週間頃)の 2 回防除を行う。

II. 果樹

カンキツ

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 8 月第 3 半旬の温州みかん巡回調査では、8 地点のうち 6 地点で枯枝から黒点病菌の発生を確認した。発生圃場率が 75.0%と、平年(44.4%)に比べてやや高い。

(2) 高松地方气象台が 8 月 14 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝を極力除去する。せん除した枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。
- (2) 薬剤散布において、散布間隔の目安は1か月とする。ただし、散布後の降水量が合計200mmを超えたときはその限りではない。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が81.3%、寄生葉率が13.1%と、平年(54.8%、5.5%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が8月14日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ナシ

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%と、平年(34.6%)並の発生であるが、発病度は0.1と、平年(1.0)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が8月14日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 早期落葉すると樹勢を弱めるので、発生の多い園では収穫後に防除を行う。

ハダニ類(令和7年7月22日付けで注意報発令)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中～多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が100%と、平年(78.0%)に比べてやや高く、寄生葉率は21.0%と、平年(17.2%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が8月14日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生の多い園では収穫後に防除を行う。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシ等)

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第3半旬のナシにおける巡回調査では、被害果の発生は認めていない。
- (2) 7月第1半旬から8月第2半旬の予察灯調査において、勝浦町及び上板町の誘殺数は、各種カメムシとも、平年より少なく推移している(表1)。

表1 予察灯への果樹カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月	半旬	勝浦町			上板町			月	半旬	勝浦町			上板町		
		2025年	2024年	平年	2024年	2024年	平年			2025年	2024年	平年	2025年	2024年	平年
7	1	2	183	55	1	301	18	7	1	1	448	59	0	373	71
	2	0	107	37	3	350	17		2	0	718	80	0	332	73
	3	0	123	49	0	128	12		3	2	307	68	6	111	28
	4	7	144	51	1	295	24		4	3	547	119	3	334	63
	5	4	45	44	0	121	9		5	3	340	78	0	480	37
	6	14	66	76	2	168	19		6	6	745	177	5	413	62
8	1	24	47	73	0	104	12	8	1	26	368	120	0	301	31
	2	21	13	80	2	74	22		2	23	265	123	4	250	38
	3		14	104		65	27		3		188	118		397	48

(3)高松地方気象台が8月14日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年より少なく、日照時間は平年より多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行う。
- (2)夜行性なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3)移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。
- (4)合成ピレスロイド系剤は、殺虫効果と吸汁阻害効果に優れ、残効も長いですが、天敵への影響が強く、ハダニやアブラムシのリサージェンスを引き起こす場合があるので注意する。

II. その他

- 1)防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにする。
- 2)薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

URL： <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。